

## 木更津高専平成22年度計画及び実績

	平成22年度年度計画	平成22年度計画実績
<p><b>【1. 教育に関する事項】</b>  <b>(1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</b></p>	<p><b>【積極的な広報活動】</b>                      ・Webページの運用、学校要覧・高専だよりの発行を継続する。                      ・中学校訪問、各学校説明会、体験入学、オープンキャンパスの充など志願者増加への方策を推進し、状況を分析する。                      ・進路指導について、近隣の中学校長会等と連携を図る。                      ・平成21年度の外部評価指摘事項(理科離れ防止教育を実施してほしい)を受けて、小中学生対象の出前講義、公開講座などへの講師派遣等交流事業を引き続き積極的に奨励する。  <b>【女子の志願者確保】</b>                      ・本校在学生及び卒業生を活用して、女子中学生への情報伝達方策を推進する。                      ・各学科において工夫を行い、入学志願者(特に女子学生)の増加を図る。  <b>【入試方法の改善】</b>                      ・入試の現状を調査分析し、特に推薦選抜方法を検討する。                      ・地域高等学校の入学選抜制度を調査する。                      ・入学者の学力を追跡調査し、選抜方法を検討する。</p>	<p><b>【積極的な広報活動】</b>                      ・本校の広報充実に向けてWebページの運用及び学校要覧2010、高専だよりの第69号並びに進学志望の手引き2011の発行を実施した。Webページは学生が迅速に臨時休校等の緊急情報を確認でき、また、一般の方々にも本校の教育・研究内容・特色等を判りやすく見られるように、必要に応じて修正を行った。高専だよりは、新旧校長挨拶・行事・学生の様子を中心に構成しており、学生・保護者・学校内外関係者及び教職員を中心に配布した。また、学校要覧は、本校の基本情報となる教育方針・組織体制・学科構成・教育設備・財政状況等を中心に構成しており、学校内外関係者及び就職関連企業等を中心に配布した。さらに、進学志望の手引きは、中学生に本校の教育内容や学校の特色が理解してもらえるように写真等を多く活用して構成しており、中学生・保護者・中学校教員・学習塾講師等を中心に配布した。各刊行物は、コストの節約から、掲載情報に応じて配布先を限定しているが、学校説明会等、本校への興味・関心を深めてもらえる機会には、各刊行物を手軽に持ち帰られるように配慮した。                      ・中学校訪問は、6月から7月にかけて県内138校を訪問した。各種学校説明会は、5月から10月にかけて16会場延べ18回学校説明を行った。また、8月に4会場延べ5日間、首都圏進学フェアにブースを開設し学校説明を行った。6月と9月には2中学校の保護者が本校を訪問した。更に、11月の学園祭に入試相談コーナーを実施した。参加者703名253組であった。このほか、オープンキャンパスは8月と10月に2回実施するとともに、8月に各学科の1日体験入学を実施した。これらの参加人数は533名263組であった。                      ・君津地方進路指導協議会及び中高懇談会、市原市中学校進路指導連絡協議会等に出席し、進路指導の一層の連携を図った。                      ・出前授業においては、木更津市及び袖ヶ浦市の小・中学校等からの講師依頼により、5回開催し、383名の参加者があった。  <b>【女子の志願者確保】</b>                      ・女子学生志願者の増加のため、オープンキャンパスにおいて、女子中学生と本校女子学生の懇談会を開催した。  <b>【入試方法の改善】</b>                      ・平成23年度推薦入試において、作文に代えて適正検査を導入し、内申・適正検査・面接の配点を明らかにすることで、推薦入試の方法を中学生にわかりやすいものとした。                      ・公立高校の入試制度が平成23年度入試から変更となるため、本校の影響について検討した。                      ・入試成績と入学後の試験成績の分析を行った結果、推薦入試における作文を教学による適正検査に変更した。</p>
<p><b>(2) 教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)</b></p>	<p><b>【学科再編、大括り化等】</b>                      ・平成22年度のJABEEの継続審査を受審することに伴い、教育課程の整備と自己点検を実施する。                      ・混合学級実施後の評価・改善について、各種委員会及び担任会で検討する。  <b>【専攻科の充実】</b>                      ・専攻科在学生及び専攻科修了生の連絡会を実施し、学生の意見・提案を教育課程に反映させる。                      ・専攻科修了要件であるTOEIC・実用英検等の公的資格について、これらとリンクした必修科目を1年前期に実施し、早期の受験・早期合格を更に指導する。  <b>【地域ニーズを踏まえた高度化・個性化】</b>                      ・平成21年度に実施した外部評価を分析し、カリキュラムの見直しについて検討する。                      ・本校で取り組んだ重度障害者に対する授業支援と成績評価方法について検討する。                      ・本校の地域性、地域の要望、志願者増を考慮したカリキュラム見直しについて検討する。                      ・産業界における人材需要、学生のニーズを考慮したカリキュラムの見直しについて検討する。  <b>【課外活動等の充実】</b>                      ・高専体育大会・ロボコン・デザコン・英語弁論大会等へ積極的に参加を推進する。                      ・ボランティア活動や社会奉仕活動を学生に推奨し、自主活動をより推進する方策を検討する。</p>	<p><b>【学科再編、大括り化等】</b>                      ・JABEE等の外部評価の意見を踏まえて、「準学士課程における新しい進級基準」を全学年に適用した。また、専攻科のPBL科目である「問題解決技法」の必修化に伴い授業内容を再検討し充実させた。                      ・混合学級実施後の評価・改善については、厚生補導研究会で検討した。また、混合学級についてはワーキンググループを立ち上げ、学生と教員を対象にアンケート調査を実施した。  <b>【専攻科の充実】</b>                      ・専攻科在学生に対して連絡会を2回実施し、専攻科に対する意見等を聴取した。                      ・1年前期の「英語総合」に英語の公的資格をリンクさせて、指導を行った。  <b>【地域ニーズを踏まえた高度化・個性化】</b>                      ・平成21年度実施の外部評価の課題等について分析し、カリキュラムの見直しを行い、平成23年度前期科目と後期科目の入替えを行うこととした。                      ・重度障害者個人に合わせた授業支援と、科目を履修したと結論付ける客観的証拠を提出できる成績評価方法について検討を行った。                      ・地域性、地域の要望、志願者増を考慮したカリキュラム見直しについて検討を行った。                      ・産業界における人材需要、学生のニーズを考慮したカリキュラムの見直しについて検討を行った。  <b>【課外活動等の充実】</b>                      ・学友会を支援し、課外活動の活性化を図り、高専体育大会・ロボコン・プロコン・デザコン・英語弁論大会、文化発表会、外国人留学生交流会等へ積極的な参加を推奨した。特に、地区体育大会(ソフトテニス、ラグビー)、地区英語弁論大会、地区文化発表会、地区外国人留学生交流会の当番校として行事を実施した。                      ・社会奉仕活動を学生に推奨し、寮生等が自主的に毎月1回土曜日の午前中に学校周辺を中心として町内の清掃を行う奉仕活動を行った。</p>

	平成22年度年度計画	平成22年度計画実績
(3) 優れた教員の確保 (採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)	<p>【多様な背景を持つ教員確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他高専や大学、民間企業等に勤務した多様な経験を持つ者を公募し、教授・准教授における割合の60%以上を継続して保持する。</li> <li>理系担当教員の新規採用にあたっては、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を有する者を積極的に採用すること並びに現職の教員におけるそれらの資格取得者の割合が向上するよう促進する。</li> </ul> <p>【他機関・高専・両技科大教員交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「両技科大及び高専間教員交流制度」に、原則1名以上の派遣者を推薦する。</li> <li>国内外研究者として原則1名以上の長期もしくは短期研修員を選出し、研究・研修を行えるよう配慮する。</li> <li>教員が高専間教員交流等の研究・研修交流に応募できるよう配慮する。</li> </ul> <p>【女性教員の比率向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門科目担当教員の女性職員の比率向上を目指し、任用のための環境整備を進める。</li> </ul> <p>【FD】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開、アンケート及び授業方法改善研究会を実施する。</li> <li>厚生補導研究会を引き続き継承発展させる。</li> <li>教育、研究、生活指導等の活動において顕著な功績が認められる教職員や教職員グループを表彰する。</li> </ul>	<p>【多様な背景を持つ教員確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年4月1日の採用にあたっては、公募により行い、環境都市工科大学の専門教員の主な採用条件として「博士の学位を有する者等」を掲げ、専門分野に適した博士の学位を有し、他大学の勤務経験を有する者を採用した。(平成22年4月1日現在他高専等の勤務経験者の割合 教授・准教授62.5%)</li> <li>平成22年4月1日の理系教員の採用にあたっては、公募により行い、採用条件として「博士の学位を有する者等」を掲げ、専門分野に適した博士の学位を有した者を採用した。(平成22年4月1日現在理系担当教員の博士取得割合82.2%)</li> </ul> <p>【他機関・高専・両技科大教員交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「両技科大及び高専間教員交流制度」に、基礎学系1名、情報工学科教員1名の派遣者を推薦し、基礎学系准教授1名が平成23年度高専間交流で長野高専に派遣されることになった。</li> <li>内地研究者として、情報工学科教員1名を東京大学大学院情報工学研究科へ派遣した。また、在外研究者として、機械工学科教員1名をバース大学(英国)及びミンガン大学(米国)へ派遣した。</li> <li>教員が高専間教員交流等の研究に応募できるよう、応募する教員の担当科目等については、その学科教員の補充及び非常勤講師の確保、在外研究者については、外国旅費及び研究費の支援に関する規則により、旅費等を支援した。</li> </ul> <p>【女性教員の比率向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員の比率向上を目指し、専門科目担当教員の年齢構成、退職年度ごとの教員の専門分野等を比較検討した。また、出産や養育、育児休業の代替教員の確保、当該学科教員の補助、職員宿舍の整備等、女性教員採用のための環境整備についても検討した。</li> </ul> <p>【FD】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学生による授業評価アンケート」を電子化し、効率化を行った。また、アンケート集計結果は学内ホームページ上で公開した。</li> <li>平成22年度厚生補導研究会を「学業成績不振者の指導の在り方について」と題して、本校カウンセラー及び教員の基調講演4件、班別討議を交え実施した。</li> <li>教職員顕彰規程に基づき、教育・研究・学校運営、地域貢献の4分野で顕彰者の推薦を公募し、推薦のあった者について、校長、主事、事務部長、FD委員による審議に基づき、教育分野2名、教育・研究分野1名、研究分野2名、管理運営分野1名(事務職員)、地域貢献分野1名を表彰した。</li> </ul>
(4) 教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用等)	<p>【自己点検評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケート等の結果を参考に、実験実習などの授業内容をチェックする。</li> <li>エンジニアリングデザイン(ED)能力向上のため、実験実習を主として、そのテーマ・内容等の改善を実施し、その効果を検証する。この成果を評価し、教育方法を改善する。</li> </ul> <p>【JABEE認定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度にJABEEの継続審査を受審し、技術者教育の質の向上を図る。</li> </ul> <p>【共同教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の高専専攻科(木更津・群馬・東京・茨城)との交流会を実施する。</li> <li>他大学、高専及び企業や研究機関との共同研究に専攻科生の参加を促進する。</li> <li>技術科学大学等との間で協議の場を設け連携を図る。</li> <li>e-ラーニングを活用した教育に取り組む。</li> </ul> <p>【企業人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>準学士課程及び専攻科課程のインターンシップを実施する。</li> <li>本校OBや地域企業技術者等を活用した実践教育を実施する。</li> </ul>	<p>【自己点検評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期中間試験直後に授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業へのフィードバックを行った。</li> <li>情報工学科において、「エンジニアデザイン能力向上のための現実プロジェクト創成実験実習環境」を用いて授業・実験実習を実施し、ここで得られた成果をとりまとめて授業にフィードバックするとともに、学会で発表した。</li> </ul> <p>【JABEE認定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度にJABEEの継続審査を受審するため、自己点検書等を作成し、JABEEに提出し、11月に実地審査を受審した。</li> </ul> <p>【共同教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻科生の視野を拡大し、研究・学習意欲の向上を図るため、群馬・東京・長野・長岡・木更津高専専攻科生の1泊2日の合同セミナーを赤城青少年交流の家で実施した。</li> <li>東電工業株式会社との共同研究に専攻科生が1名参加した。</li> <li>長岡技術科学大学等より講師を招聘し、大学編入・大学院受験に関する説明会を実施した。また、長岡・豊橋技術科学大学で行われた教員研修会に参加した。</li> <li>英語e-ラーニング教材を活用した英語コミュニケーション能力向上を図り、その成果としてTOEIC、英検等の専攻科修了で必要となる資格成績が得られた。また、e-ラーニング高等教育連携(eHELP)と連携して参加大学及び高専が提供するインターネット遠隔講義を利用した外部単位取得を奨励した。更に、双方向遠隔授業を可能とするインターネットを活用したハイビジョンテレビ会議システムを導入した。</li> </ul> <p>【企業人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>準学士課程及び専攻科課程の学生193名がインターンシップを行った。</li> <li>地域企業・高専OBの勤務する技術者・経営者の協力のもと、「実践的工学教育に関する講演会」を5回開催した。</li> </ul>

	平成22年度年度計画	平成22年度計画実績
(5)学生支援・生活支援(メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育等)	<p>【メンタルヘルス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外におけるメンタルヘルス研究会及び学生相談等の研修会へ参加する。</li> <li>・学内において自殺予防に関するメンタルヘルス研修会を実施する。</li> <li>・カウンセラーによるインテーク面接技法の講習会を低学年担任に対し実施する。</li> </ul> <p>【進路選択支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年における進路指導の充実を検討する。</li> <li>・学生の適正や希望に応じた進路選択ができるよう企業情報、就職・進学情報などを収集し提供する。</li> </ul> <p>【図書館及び寄宿舎の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書の整備拡充を図る。図書館とネットワークセンターを統合した図書館改修を計画する。</li> <li>・学生や地域に強みに宣伝し図書館の利用促進を図る。</li> <li>・蔵書検索システムOPACを導入し、学内及び学外からWebによる検索や貸出し予約ができるようにする。</li> <li>・男子寮の改修や女子寮の増築について検討する。</li> </ul> <p>【校内IT化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生・教職員のID発行などの校内IT化推進の検討を進める。</li> </ul>	<p>【メンタルヘルス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外における「メンタルヘルス研究会」に参加した。また、機構主催の「国立高専メンタルヘルス研究会」に教員等が参加した。</li> <li>・教職員及び保護者を対象とした自殺予防に関するメンタルヘルス研修会を開催した。</li> <li>・カウンセラーによるインテーク技法とカウンセリングの実態の研修を行った。</li> </ul> <p>【進路選択支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の進路指導については、各学科学級担任が学生の進路の内容に応じ、きめ細かい指導を行った。</li> <li>・求人企業データは、表計算ソフトやWebアプリケーション等を使用してリストを整理し公開した。また、求人資料は、各学科で整理し求人企業のリスト番号を付し、学生が自由に閲覧できるように配慮した。また、各大学から送付される進学資料は学生課で一元管理し、学生が自由に閲覧できるようにした。さらに、各学科とも過去の進路実績を整理し、学生に公開した。</li> </ul> <p>【図書館及び寄宿舎の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の要望を取り入れながら、蔵書の整備拡充を図った。また、学内から利用できる電子ジャーナル、サイエンスとサイエンスに機関加入し、学生・教職員向けに利用講習会を開催した。また、図書館にネットワーク情報センターの機能を統合した図書館改修の計画に基づく概算要求を行った。</li> <li>・図書館のホームページを一新し、新着ニュースやカレンダーなど学内外から利用しやすい構成とした。</li> <li>・蔵書検索システムを6月に稼働させ、学内外からWebによる検索や貸出し予約ができるようにした。</li> <li>・女子寮の増築に向けて女子学生のニーズを分析するとともに、地質調査や実施設計を行い、23年度工事に向けて千葉県に計画通知書を提出した。また、男子寮のトイレ・洗面所の改修について予算要求を行うとともに居室の床張り替え工事を実施した。さらに、寄宿舎居室への空調設備の導入について、寮生のニーズを調査分析し、整備計画書を本部に提出した。</li> </ul> <p>【校内のIT化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内のIT推進については、「WebキャリアカルテシステムとFDデータの一元化による教育改善－学生の自己診断システムの構築とFDデータの一元化－」の基本システムの予算を獲得した。</li> </ul>
(6)教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備等)	<p>【施設マネジメント、教育環境の充実、環境配慮、寄宿舎整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かなキャンパスづくり推進のため、既存施設・設備の調査及びメンテナンスを実施・推進する。</li> <li>・課外活動の支援として、課外活動施設の点検を行い、コスト面を配慮した整備計画を検討する。</li> <li>・環境専門委員会と施設整備専門委員会と合同で省エネ等に配慮した施設整備方針を検討する。</li> <li>・施設の実態を調査し、老朽化・狭隘化・耐震性等を調査するとともに有効活用を検討する。</li> </ul> <p>【安全衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年4月「本校における安全管理の仕組みについて」の方針に基づき、達成できなかった項目を各部署に提案し、改善を図る。また、全教職員対象の安全管理のための講習会を開催する。</li> </ul>	<p>【施設マネジメント、教育環境の充実、環境配慮、寄宿舎整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設マネジメントの充実を図るとともに、豊かなキャンパスづくり推進のため、既存施設・設備のメンテナンスを実施した。また、キャンパスマスタープラン策定に向け、施設設備専門委員会にWGを設置し、検討を開始した。</li> <li>・課外活動の支援として、合宿研修施設を改修し、屋内トレーニング場及びものづくり作品の展示場等に転用し有効活用を図った。</li> <li>・環境専門委員会と施設整備専門委員会と合同で省エネ等に配慮した施設整備方針・設備の省エネ対策方針の検討を行った。</li> <li>・施設全体の利用状況実態調査の調査方法を検討後、調査を実施し、今後の施設の有効活用を図るための資料をとりまとめた。</li> </ul> <p>【安全衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校における安全管理の仕組みについて」の方針に基づき、事件・事故を防止するために改善計画を提示し、改善の推進を図った。また、施設等の危険防止のため、定期点検・調査・安全巡視を実施した。その他、AED利用説明会、普通救命講習会を実施した。さらに、「緊急災害対策マニュアル」を作成し、地震及び火災を想定した防災訓練を実施した。</li> </ul>
【2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理等)】	<p>【外部資金獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。</li> <li>・地域共同テクノセンターを中心とした共同研究、受託研究、受託試験、公開講座、技術相談を引き続き推進する。</li> </ul> <p>【産学連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内における研究発表会(一般特別研究発表会・卒業研究発表会・専攻科特別研究発表会)を広く公開する。また、学外から参加しやすいよう発表会の在り方を検討する。</li> <li>・テクノフォーラム等でパネル展示を行い、技術シーズと地域ニーズのマッチングを図る。共同研究等の促進のため、授業を組み込まない曜日の確保に努める。</li> <li>・全国高専テクノフォーラム等に担当教職員を派遣する。</li> <li>・学生の技術振興交流会分科会に対する出席を促進する。</li> <li>・地域企業との共同研究、地域企業からの技術相談等の交流を進め、学生への教育フィードバックさせる。教員の研究テーマ等を本校Webページに引き続き掲載する。</li> </ul> <p>【知財管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパー地域連携産学本部を有効活用し、知財資産化を推進する。</li> </ul>	<p>【外部資金獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費等補助金獲得に向けた以下の内容の説明会を開催し、応募者を募った。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)計画調書の書き方</li> <li>(2)平成23年度公募申請における主な変更点</li> <li>(3)申請に関する注意点</li> <li>(4)申請スケジュール</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究7件(7,800,000円)、受託研究3件(12,653,000円)、受託試験1件(24,100円)、奨学金寄付金16件(9,355,000円)を獲得した。公開講座においては、21講座を開講し、技術相談においては19件を受けるなど地域住民、地域企業等の要望等に対応した。また、木更津市との協働事業として「テレワークセミナー」の5講座を開講し、講師を派遣した。</li> </ul> <p>【産学連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内における卒業研究発表会・一般特別研究発表会・専攻科特別研究発表会及び一般公開した。一般特別研究発表会には、他高専の教員も参加できるように各高専に周知し、他高専の教員が参加した。</li> <li>・10・3月に開催したテクノフォーラムにおいて教員の研究についてのパネル展示を行い、企業会員等との技術シーズと地域ニーズのマッチングを図り、共同研究等の推進を図った。また、共同研究等を促進するため、教員について原則として週1日授業のない日を設定した。</li> <li>・全国高専テクノフォーラム、関東信越地区テクノセンター長会議、産学官連携会議、千葉大学サイエンスパークセンター事業運営委員会、木更津商工会議所異業種交流プラザ例会等に出席し、産学官交流を推進した。</li> <li>・技術振興交流会分科会に準学士課程及び専攻科課程の学生を参加させた。</li> <li>・「ALS患者の機能拡張」に関する技術相談があり、専攻科学生が参加した。また、教員の研究テーマ等をWebページに掲載するとともに、教員の研究テーマ等のシーズ集作成に着手した。</li> </ul> <p>【知財管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の知的資産化については、機構本部の知的財産活動基盤強化事業「戦略展開プログラム」を活用し、教員の研究シーズから特許化の可能性などを支援する特許発掘面談を6件実施した。また、1月末に「特許の種をどのように見つけるか」等を中心とした講習会を開催した。</li> </ul>

	平成22年度年度計画	平成22年度計画実績
<p><b>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入等)】</b></p>	<p><b>【地域技術者への貢献】</b>  ・木更津高専技術振興交流会、地共同テクノセンターの更なる連携拠点化への方策を検討する。地域共同テクノセンターWebページの更なる充実策について検討する。  ・本校主催の公開講座や木更津市テレワークセミナーへの講師派遣等の協力を継続し、参加者の7割以上から評価されるよう充実を図る。  <b>【理科教育支援】</b>  ・小中学校向けの理科教育支援として、技術振興交流会教材開発分科会を中心に方策を検討するとともに、出前授業等の実施状況調査や分析を推進する。  <b>【卒業生ネットワークの構築】</b>  ・学科1名、同窓会活動の責任者を選出し、同窓会と連携し、卒業生の情報収集について検討する。  <b>【国際交流・海外派遣】</b>  ・交流協定締結大学である台湾国立聯合大学やゲーティンステューテの主催する学生・教員交流に向けて積極的に取り組む、高専機構主催の海外インターンシップに応募を促進する。  <b>【留学生の受入】</b>  ・留学生交流促進センターの開催する教職員対象の各種研修会、研究会に参加する、近隣小中学校や地域国際交流協会等と連携し、留学生と地域社会との交流を推進する、</p>	<p><b>【地域技術者への貢献】</b>  ・木更津高専技術振興交流会においては、総会、役員会活動をはじめ、年2回のテクノフォーラム、7分科会で計14回の会合、交流会会員を対象としたレベルアップ講座の開催、会員ニーズアンケート調査を実施するなど、交流会の活動を積極的に支援した。地域共同テクノセンターにおいては、本校教員OBを地域連携・産学官コーディネーターとして委嘱し、地域中小企業を主に、企業訪問し、技術相談等の事業を実施した。その他、千葉大学・千葉県・木更津市・地域商工会議所と交流を行うなど、連携拠点化への推進を図った。更に、テクノセンターのWebページを更新し、技術相談申込書などを新設した。  ・本校主催の公開講座を21講座開設した。また、木更津市と協働で行う「テレワークセミナー」においては5講座を開設し、公開講座の満足度アンケート結果によれば、参加者の満足度はほぼ100%であり、目標値を大きく上回った。  <b>【理科教育支援】</b>  ・木更津市小・中学校教員(29名)を対象とした、講義・実験「子供の目が輝く理科授業～身近なもので理科実験～」と題して、実施したが、出席教員から定期的に理科研修会(物理・化学)の開催を希望する旨の回答が多数あった。出前授業においては、木更津市及び袖ヶ浦市の小・中学校等からの依頼により、5回開催し、383名の参加者があった。更に、知的障害者のための特別支援学校である千葉特別支援学校において、コンクリートづくりに関する講座(実習編・基礎学習編・応用完成編)を実施した。  <b>【卒業生ネットワークの構築】</b>  ・各学科卒業生の同窓会役員1名を選出した。また、卒業生名簿(追録版)を作成し、卒業生名簿(本冊)とともに卒業生に配布した。また、「全国高専同窓会連絡会」に同窓会長が参加した。  <b>【国際交流・海外派遣】</b>  ・ゲーティンステューテ主催のインド国際ドイツ語キャンプ(6月)、ドイツにおけるドイツ語研修(8月)に学生を参加させた。また、交流協定締結大学である台湾国立聯合大学との学生及び教員の交流を推進した。機械工学科・環境都市工学科4年生が研修旅行(3泊4日)として訪問した。また、教員14名(5泊6日)を招待し「国際ワークショップ」を開催した。さらに、中国語研修として3週間学生を派遣した。  <b>【留学の受入】</b>  ・留学生交流促進センターの開催する「留学生・国際交流担当者研修会」(7月)に教員が参加した。また、木更津市国際交流協会と地元ボランティアの協力により、留学生ホームステイ(7月)を実施した。</p>
<p><b>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流等)】</b></p>	<p><b>【危機管理体制】</b>  ・事件・事故・疾病・自然災害等の危機管理に対応するため、平成20年度に危機管理対策会議を設置したが、事案に対する連絡体制・情報収集等の問題点を検証し、適切に改善を図る。  <b>【教職員の服務監督・健康管理】</b>  ・毎週開催される会議(校長、3主事、専攻科長、テクノセンター長、事務部長、2課長)において、議題の他に教職員の服務・健康管理状況についても報告を受ける体制を整えているが、なお、一層の情報収集体制について検討する。  <b>【職員の研修】</b>  ・事務職員や技術職員の能力向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに必要に応じて文部科学省、国立大学法人等が主催する研修等に参加させる。  <b>【人事交流】</b>  ・事務職員については、高等専門学校間、国立大学との人事交流を図る。また、技術職員については、高等専門学校との人事交流を図るとともに、国立大学との人事交流についても調整する。</p>	<p><b>【危機管理体制】</b>  ・学生及び教職員が地震、風水害その他自然災害並びに火災、爆発等に遭遇した場合の「緊急災害対策マニュアル」を作成し、教職員に配布した。また、事件・事故等の事案に対する緊急連絡体制について、見直しを行い、緊急連絡網を整備し、関係職員に配布した。  <b>【教職員の服務監督・健康管理】</b>  ・教員の勤務状況等を把握するため、校長と各学科・学系主任及び全教員(研究業績書等を提出させた)とのヒアリングを実施した。教員とのヒアリング結果を基に、教員の業務負担軽減のため委員会統廃合等について検討し、委員の削減等について、23年度から実行することとした。  <b>【管理運営その他】</b>  ・本校の特色を生かした教育活動の創出及びその活動による外部資金獲得に関することを行うため、副校長(特色活動担当)を任命した。  ・平成21年度に実施した外部評価委員会委員に指摘された各評価項目についての課題及びその他の提言についての対策等について検討し、国際交流等、実行できる事項から実行した。  <b>【職員の研修】</b>  ・平成22年度関東・甲信越地区及び東京都「実践セミナー」(財務の部)1名参加予定。  ・平成22年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会2名参加  ・総務省情報統一研修1名参加  ・平成22年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任者研修会2名参加  ・平成22年度生涯学生修学支援教職員研究会1名参加  ・平成22年度学務関係職員研修会1名参加  ・第27回技術職員セミナーを開催(本校技術職員対象)  ・第6回技術学習会を開催(本校技術職員対象)  ・第2回「高専技術教育発表会IN木更津」を開催(本校主催で全国高専技術職員を対象)  <b>【人事交流】</b>  ・事務組織の充実及び円滑に運営するため、千葉大学と人事交流を実施した。</p>
<p><b>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し等)】</b></p>	<p><b>【業務の効率化】</b>  ・管理業務の合理化を図るとともに、定員管理及び給与管理を適切に行うなど、中期計画に従い、一般管理費(人件費相当額を除く)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。また、特色を活かした運営を行うことができるよう経費の戦略的かつ計画的な資源配分を行う。  <b>【経費の配分状況】</b>  ・学内予算配分基準に基づき効率的な配分を実施するとともに、教育改善充実、研究の推進発展、設備の充実及び中期計画の重点事業の推進を図るため、校長裁量経費の拡充を行い、重点的に配分する。  <b>【随意契約の見直し】</b>  ・従来随意契約で行っていた契約(インターネット回線使用料、ガスヒートポンプ保守点検契約等)について一般競争契約で実行する。</p>	<p><b>【業務の効率化】</b>  ・学内予算配分基準に基づき、校長裁量経費や重点事項への戦略的な配分を行った。また、省エネへの取り組みとして四半期ごとに電気・ガス・水道の使用量を教職員に周知し、経費節減への意識向上を図った。特に、7月から9月の夏期期間にかけて猛暑が続き、空調使用による電気及びガスの使用量が前年より大幅に上昇したため、更なる省エネと経費節減を教職員に徹底した。  <b>【経費の配分状況】</b>  ・学内予算配分基準に基づき効率的な配分を早期に実施するとともに、教育改善充実、研究の推進発展、設備の充実及び中期計画の重点事業の推進を図るため、校長裁量経費の配分方針を見直し、戦略的かつ重点的に配分を行った。また、予備費の執行で駐車場の新設や体育施設、視聴覚機器の更新を行い、教育環境等の整備を推進した。  <b>【随意契約の見直し】</b>  ・随意契約の見直しを行い、インターネット回線使用料、ガスヒートポンプ保守点検契約等、従来随意契約で実施していたものを一般競争契約に移行した。</p>

	平成22年度年度計画	平成22年度計画実績
【6. その他】		<p>【サイエンススクエアの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年8月17～18日に国立科学博物館で開催された「サイエンススクエア」に参加し、2講座を開講するとともに延べ240人の小学生が夏休みの宿題のヒント探しに受講し、盛況のうちに終了した。</li> <li>・平成21年10月17・18日に「第20回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」を本校が当番校として、かずさアカデミアホールで開催したが、これに併せて同ホールで子供達が工作・ものづくりによる遊びなどの活動を通じて、科学に親しむことを目的として小学生を対象とした「木更津高専サイエンススクエア」を企画し、応募者を募った。しかし、同時期において新型インフルエンザが流行し、やむなく中止することとなったため、応募してくれた小学生のため同企画を平成22年10月16日に本校第1体育館で開催し、300名が参加した。また、この企画は本校が主催し、木更津高専技術振興交流会が共催、木更津商工会議所・君津商工会議所・富津市商工会・袖ヶ浦市商工会が後援した。</li> </ul>